



北九州市立千代小学校  
校長 宮原 謙二  
平成30年10月30日

## 平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成30年4月17日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

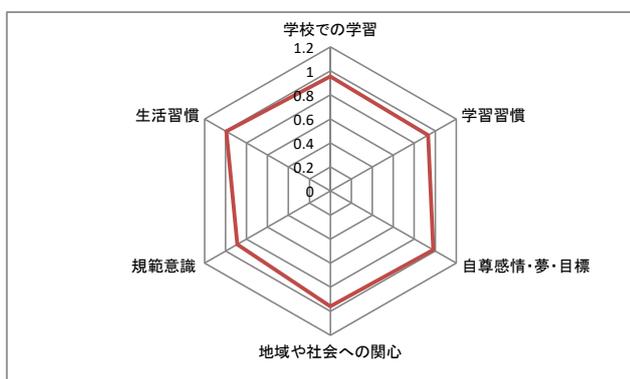
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	日常的に自分の考えなど文字を書く習慣を身につけさせたい。 学年別漢字配当表に示されている漢字は、できるだけ使うように呼び掛けていく。	同程度
国語B	日常的に読書習慣をつけることにより、さらに力がつくと思われる。	上回っている
算数A	十進位取り記数法、除法の意味理解が不十分なため、授業などで繰り返し取り上げていく。	下回っている
算数B	応用問題に対しても、最後まであきらめずに問題を解いている。	下回っている
理科	最後まで見直しを行い、記述問題にも積極的に取り組み、無回答率が低い。	同程度

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶を進んでしたり、学校のルールを守ったりする等、生活規律の意識が高い子どもが多い。</li> <li>・学校からの宿題を必ずする習慣が定着している。</li> <li>・自学についての取組は、各学級で行っているが、計画的に見直しをもって弱点を克服する取組となっている児童の数は少ない。</li> <li>・学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることが、「できている」と答える児童は、年々増えてきている。</li> <li>・将来の夢や目標を持って日々の学校生活を送っている児童が多い。</li> </ul>

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ・考えをまとめ、相手に分かりやすく伝える活動を子どもの発達段階に応じて学習活動の中に位置づける。
- ・全国学力学習状況調査(6年)や、北九州市学力学習状況調査(4・5年)、観点別学習状況調査(1～3年)へ向けての過去問題を継続的に取り入れたり、学力定着サポートシステムの診断問題や基礎基本定着問題を活用したりする。
- ・学び方を学ぶことや、基礎的・基本的な内容の更なる定着に向け、『読む・考える・書く・発表(表現)する』学習活動を丁寧に進めていく。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用方法について保護者会等、機会を捉えて説明しながら家庭と学校が協力して取り組む。
- ・自学ノートや宿題について担任等が丁寧に点検し、価値付けながら進んで取り組む意欲をさらに高めていくようにする。
- ・自学ノートを校内掲示して、価値を認めるとともに、工夫していることを共有したり模倣したりできるようにする。